

やバクテリアが付着せず、製造時の清潔な状態を保つことが大きな特徴。消費者が実際に飲むまで、汚れや菌から飲料缶の飲み口をしっかりと保護する。また、接着剤などを用いず「熱と圧力」のみでアルミキャップを接着するキャップシーリング技術を採用しているため、アルミ缶と共に100%のリサイクルが可能だ。加えて、水や氷、また最大60℃までの熱耐性を備えているので、キャップを取り付けた状態で自動販売機での販売が可能。アルミシートは両面に印刷できるため、めくった際に“当たり”が現れるなどのキャンペーン実施や、QRコードの印字でウェブサイトへの誘導など、さまざまなプロモーション展開に可能性が広がる。

装置はシーリングヘッドの数によって5タイプを用意しており、価格は800万円からとなっている。新型コロナ以降、衛生安全への関心が急角度で高まっていることから、同システムが可能にする衛生性の向上へ関心が集まりそうだ。

なおマツボーでは、飲料や食品、家庭紙業界など、工場のロジスティック自動化技術の開発に特化したElettric80社（イタリア・ヴィアーノ）による最新の工場内マテリアルハンドリング自動化技術も紹介している。同社の無人搬送システム「LGVsシリーズ」は、すでに日本で製紙業界に導入されているが、今後は食品と飲料業界にも提案したい考え。

## 缶飲料の多彩な販促活動を可能に 【マツボー】

神戸製鋼グループで各種産業機械・設備の輸出入などを主要事業とするマツボー（東京都港区）が、ECOCAP' S社（イタリア・ボローニャ）と共同で出展した缶飲料の新しいコミュニケーションツール「TOPSYL（トッシル）」は、2019年のドリンクジャパンでも紹介されている。この時はこの特許を所有するECOCAP' S社のみで出展したが、2020年のドリンクジャパンではマツボーがサポートする形で出展した。今後はマツボーが「TOPSYL」および「キャップシーリングシステム」の国内展開を進める。

同システムでは、缶飲料の飲み口をアルミ製のキャップでしっかりと完全接着する。飲み口に菌



マツボーが国内缶飲料に提案する「TOPSYL」



アルミシールで飲み口を覆うキャップシーリングシステム

**マツポー**  
**飲料缶の飲み口にアルミシール**  
**販促しながら衛生性も担保**

マツポー（東京都港区、  
☎03・5472・1747）は、飲料  
缶の飲み口にアルミの

シートを  
シーリン  
グするキ  
ャップシ  
ーリング  
システム  
の提案に  
乗り出し  
た。Ec  
o cap  
S社（イ  
タリア）  
の代理店

として販売する。販促効果の向上を見込むほか、飲み口を接着して完全に覆うため飲用時まで衛生性を保てる点も特徴だ。

アルミシートは両面印刷が可能で、QRコードの印字によるウェブサイトへの誘引や、ランダム印刷を用いたキャンペーンの組み合わせなど、プロモーションの幅を広げる。天面に商品情報を与えるため、缶を倒した状態や上から見た場合の差別化にも役立つ。キャップは接着剤を

使用せず、加圧と熱による独自の技術でアルミ同士を密着させている。密閉性が高いため

の高温耐性を持ち、自動販売機での販売も可能だ。

カビの発生も抑制する。シートはアルミとしてリサイクルが可能  
なほか、最大60度まで

同システムはすでにヨーロッパを中心にイタリアやトルコなどで採用されている。6種類の機器をラインアップしており、シーリングヘッドの数は最大で60個。シーリングヘッド1個の「CSS 020」は毎時間1〜1500個の缶にシーリングを行う。  
マツポーは同システムを飲料メーカーなどに向けて提案、また先の「ドリンクジャパン」にも出展した。ブースには多くの来場者が足を運んだ。